



新年のご挨拶

国土交通省出雲河川事務所
所長 渡邊 茂

新年あけましておめでとうございます。(社)鳥根県建設業協会出雲支部の皆様方におかれましても穏やかな新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。また、皆様には平素より出雲河川事務所の治水や河川環境整備の取り組みへのご理解ご協力をいただき誠にありがとうございます。

出雲河川事務所の担当している斐伊川神戸川の流域は、農業をはじめ川からの恵みを受けこれまで発展してきた反面、平成18年7月豪雨による出水はもちろんのこと、これまで幾度となく水害に苦しんできた地域です。斐伊川神戸川治水対策のうち、斐伊川中流において事業中の斐伊川放水路につきましては、開削部における基盤整備や神戸川拡幅部における神戸堰改築や神戸川旧堤防の撤去などを精力的に進めています。今年は特に放水路分流点付近の県道付け替え工事に着手して、分流施設着工に向けた周辺整備を進め、平成20年代前半の放水路完成に向け事業を推進します。

また、平成18年7月豪雨による洪水では、松江市街地などが34年ぶりに浸水するなど流域で大きな影響を受けました。一方、従前より着実な整備を進めてきた宍道湖西岸堤の背後地や斐伊川放水路の周辺では大きな浸水被害はなく、事業中の箇所を含めて社会資本整備の効果が現れています。松江市街地の抜本的な浸水対策となる大橋川の改修が待たれますが、大橋川に関しましては大橋川周辺まちづくり検討委員会や大橋川改修に関する環境検討委員会などにおいて熱心なご議論をいただいているところです。市民の皆様の声も伺いながらよりよい計画の具体化に向けて取り組んでいきます。

この他、中海の湖岸堤整備、ラムサール条約に登録された宍道湖中海の環境を保全する環境整備事業、樹木伐採や土砂移動が課題となっている維持修繕事業などを推進します。

公共工事の品質確保につきましては、平成17年4月の「公共工事の品質確保の促進に関する法律」施行以来、総合評価方式の実施拡大に取り組んできたところであり、本年もこの新しい仕組みの定着に努めていきます。後世に残る良質な社会資本の整備を通じて地域づくりに貢献するため、関係者の皆様と協力して取り組んでいきます。

最後になりましたが、本年における(社)鳥根県建設業協会出雲支部の皆様方の工事安全と益々のご発展ご活躍を祈念申し上げまして、新年のご挨拶とさせていただきます。



新年のご挨拶

出雲労働基準監督署
署長 澤田 真也

新年明けましておめでとうございます。会員の皆様にはすがすがしい新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。また、労働基準行政、とりわけ労働災害防止対策の推進に格別のご理解ご協力を賜っておりますことを改めてお礼申し上げます。

さて、当署管内における休業4日以上労働災害ですが、平成10年に311件であったものが、平成18年には312件と減少を見ていない中、建設業は同107件から65件と約4割の減少となっています。鳥根県全体の建設業がこの間半減させているのには及びませんが、こういった結果が残せたのも建設業労働災害防止協会出雲分会が労働災害防止のため会員事業場の安全衛生管理水準の向上を図るべく安全パトロールをはじめとした各種活動を活発に展開してきたこと、また各事業者の皆さんが、労働者の安全衛生の確保のため、安全第一の理念のもと労働安全衛生法令の遵守等労働災害防止のための各種措置を講ずるなど日夜努力してきた賜物と考えています。昨年、平成19年も11月末段階で48件と前年同期の59件に比べ約2割の減少をしています。また、昨年が最終年であった第10次労働災害防止計画も昨年10月末段階で全産業では目標値を16.4パーセントオーバーしてしまったのに対し、建設業は目標値を達成できる見込みです。

しかし、死亡災害は鳥根県全体で平成18年には11件中8件、平成19年も11月末日現在7件中5件が建設業で発生しており、いずれも7割を超えています。建設業における休業災害を含めた死傷災害は全産業の2割程度であることを考えると、死亡災害の発生割合が突出しています。それだけ、建設業においては死亡災害を含む重篤な災害の発生率が他産業に比べ極めて高く危険な職場であることも事実であります。

これらの災害をなくすには、結果オーライの安全管理から危険ゼロを目指す取り組みが重要です。職場における労働災害発生の芽(リスク)を事前に摘み取るため、設備、原材料等や作業行動に起因する危険性・有害性の調査(リスクアセスメント)を行い、その結果に基づき、必要な措置を実施することが重要です。

建設業を取り巻く状況は、公共事業費の大幅な減少など受注環境の悪化をはじめとして極めて厳しい状況にあると思いますが、引き続き労働災害のない安心・安全な職場作りを目指して、取り組みを強化していただくようお願いいたします。

最後になりましたが、社団法人鳥根県建設業協会出雲支部の益々のご発展と会員事業場の益々の飛躍をご祈念申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。



新年のご挨拶

出雲県土整備事務所
所長 森山裕夫

新年あけましておめでとうございます。皆様方におかれましては穏やかに新年をお迎えになられたこととお慶び申し上げます。

私は、12月に待望久しかった一般国道9号出雲バイパスが全線開通しましたが、同時開通を目指して整備を進めて来ました一般県道木次直江停車場線神水工区を無事一緒に開通できました安堵感と開通式に参加されました皆様方の満面の笑顔を胸に新年を迎えることができました。

昨年を振り返りますと、5月は中川地区排水対策の竣工、赤川付替区間の通水開始、6月は一般国道431号上遥堪工区歩道整備の竣工、10月は河下港新埠頭の供用開始など、地域の長年の悲願でありました各種社会資本整備が着実に完成した年でありました。一方、神戸川流域を中心とした平成18年7月豪雨災害の復旧対策は、災害工務部と災害用地スタッフを新たに配置し、事務所の重点課題として取り組んでいます。現在、出雲市所原町の広域基幹河川改修事業、乙立町と佐田町八幡原の2地区での河川災害関連事業は順調に進捗しております。

これは、地域の皆様方のご理解とご協力、関係機関の力強いご支援、工事関係者のご尽力によるものであり、改めまして感謝を申し上げます。なお、天候に恵まれ、自然災害に見舞われなかったことも幸いでありました。

しかしながら、本県の財政は極めて厳しい状況であり、10月31日に財政健全化基本方針が発表されたところですが、財政健全化を進めていく上では更に公共事業費や職員の削減等の改革が不可欠となっています。真に必要な社会資本整備の選択、既存施設の適正な維持管理と有効活用、コスト縮減や事業展開の工夫、県民との協働など、より一層の取り組みを強化して行く必要があります。そして、入札制度改革につきましても、対象範囲拡大などの取り組み強化が必要であります。

引き続き、こうした改革への取り組みに対し、建設業界の皆様方のご理解とご支援をいただきますようお願いを致します。

最後に、本年が(社)鳥根県建設業協会出雲支部の皆様方にとって良い年になりますことをご祈念申し上げまして、新年の挨拶とさせていただきます。



安全委員研修視察報告

安全委員会担当副会長
西谷義興



私たち安全委員会は去る11月8、9日の両日、今後の私たちの活動の参考とするため神戸市を中心として視察、研修会を行いました。

以下に簡単に研修会の成果を報告します。

(1)人と防災未来センター：大型スクリーンにて震災発生時のすさまじさを体験しました。また、犠牲者追悼のスクリーンにて被災者の悲しみを身にしみて感じました。併せて復興支援活動、ボランティア活動、全国からの激励メッセージなどの展示を見学しました。樋野武年君は姉を震災で亡くしていますのでウッスラと涙を浮かべているのを見ました（私はその場では何も言いませんでしたが）

地震災害に対しては通常建造物の耐震強度（横揺れ強度）を問題にしますが、直下型地震は様相が異なります。最初に強烈な突き上げにより建造物下層部に致命的なダメージを与え（客座あるいは座掘現象ともいいます）、更にその後の横揺れにより壊滅的崩壊をきたします。私は直下型地震にたいしては未だ研究中場と感ずいます。

木造家屋は地震に弱いとされますが必ずしもそうとは思いません。阪神地域は戦争による空襲後の安普請が多かったのではないのでしょうか。しっかりとした木組みの古い家の多かった鳥取県西部地震では阪神・淡路大震災と同程度の地震エネルギーでもさほどの被害はでませんでした。

地震後の火災は消火も不可能で多大な死者を出します。関東大震災でも死者はほとんど火災によるものです。鳥取県西部地震でも、中越地震でも、柏崎地震でも火災を出さなかったこと、家屋が密集していなかったことが不幸中の幸いであったと感じます。

(2)酒蔵（白鶴酒造資料館）：神戸には有名な灘の酒造家がたくさんあり、これも壊滅的被害を受けたと聞いていました。現在では見事に復興し、資料館見学を楽しみました。私は自分の晩酌用に銘酒を買い込みました。

(3)三ノ宮駅周辺：三ノ宮駅は震災で崩壊したと聞いていました。今では地震などなかったような賑わいでした。駅周辺で懇親会をしました。元職員の山名さんも参加してくださいました。お元気でした。

(4)酒蔵の対岸は神戸製鋼でした。製鉄所も壊滅的被害で操業停止、日本中の製鉄業が応援に駆けつけたと聞いていましたが、完全に復旧操業していました。

(5)高速道路網：どこが甚大震災被害を受けた場所なのか良くわかりませんでした。完全復旧???

(6)花と緑と水のオアシス（須磨離宮公園）：庭園（造園）技術のすばらしさを見学しました。文字通りオアシスのようでした。震災見学の後ではまさに一服の清涼剤でした。

(7)姫路城：時間がなくて城周辺一周で終わりました。残念!!

その他

私たちは往復の道中、並びに懇親会においても皆で常に真摯に意見交換をいたしました。しかし、なぜかいつも後半になると石飛さんのすばらしい弁舌と人徳、大声、毒気によって抱腹絶倒、大爆笑、となってしまうました。特に付記（吹き???)しておきます。お疲れ様でした。